

東北の団結強化し、行動力で活路を拓こう

地方組織をお荷物とした KPU を批判

(東北地連)

2012年6月13日 東北地連第38回定期大会で高橋学委員長があいさつ。

全自交東北地連（高橋学委員長）は、6月13日秋田市の秋田温泉さとみにおいて、第38回定期大会を開きました。



大会には、全自交労連の伊藤実委員長、待鳥副委員長をはじめ、秋田県平和労組会議の伊藤議長秋田県交運労協の澤田副議長、全国ユニオン秋田代表で自主管理会社の谷地田代表の5名が来賓として出席しました。

また、被災地での復興活動や諸闘争を闘う東北地連加盟地連・地本から88名の代議員・オブザーバーが参加しました。

大会は江良執行委員の司会で始まり、高橋委員長が主催者代表挨拶で被災地の職場再建の取り組み、争議支援、組織拡大の取り組みに触れ、「東北の団結を強化して行動力で活路を拓こう」と訴えました。また地方組織を「お荷物」として分裂したKPUを批判しました。来賓挨拶に立った本部の伊藤委員長は被災地の労をねぎらい、タクシー事業法制定の取り組みをはじめ全国的な産別運動の強化を呼びかけました。活動報告では森書記長が2012春闘の妥結状況、各県の減車の取り組み、被災職場の再建の取り組み等を力を込めて報告しました。その後、各県代表が争議、自主再建、震災復興等の主要な取り組みを報告すると共に、当該労組から復興支援、争議支援への御礼が述べられました。議事では森書記長が新年度運動方針を提案し、「震災復興・生活再建に対する支援継続の課題やタクシー事業法成立に全力をあげ、行動力を発揮して組織拡大につなげよう」と呼びかけました。規約改正案では東北地連大会の代議員増の提案が承認されました。役員体制は現行のまま1年間継続することを確認しました。最後に高橋委員長の「ガンバロウ」三唱で大会を締めました。大会後、復興支援物品販売も行い完売しました。

続く14日には同会場で政策セミナーを開催し、大沼執行委員が座長を務め、待鳥副委員長の講演を頂きました。講演では免許制を柱とするタクシー事業法案の具体的内容をわかりやすく説明するとともに、ブロック制の強化で地域の産別運動を確立することを呼びかけました。参加者は次年度開催の山形での再会を誓い散会しました。

